

診療科紹介

■ 診療科 医科部門

■ 診療科 歯科部門

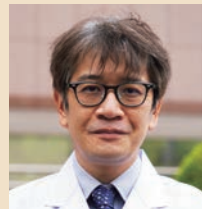
■ 中央診療施設等

■ 院内診療支援施設等

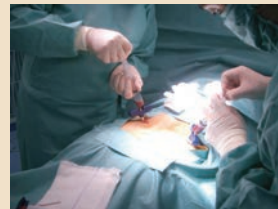
■ 別府病院

血液・腫瘍・心血管内科

血液・腫瘍・心血管内科は、造血器疾患、固形腫瘍、心血管疾患に対して最新の医学的知見に基づいた医療をすすめています。総合内科としての特色を活かして、さまざまな分野の専門知識や技術を駆使して診療を行っています。



科長 菊繁吉謙



骨髄採取

【得意分野】

白血病など造血器悪性腫瘍の診療を中心に、病態に応じて抗がん剤・分子標的薬治療、難治症例に対しては同種造血幹細胞移植500例以上、自己末梢血幹細胞移植400例以上を実施してきました。また消化器癌、原発不明癌、肉腫やその他様々な希少がんなどの抗がん剤・分子標的薬治療、免疫療法、がんゲノム検査に基づいた治療も積極的に行っています。心血管インターベンション(冠動脈形成術、末梢血管形成術、腎動脈形成術、カテーテル心筋焼灼術、構造的疾患インターベンションなど)を行っています。

【診療体制】

日本内科学会総合内科専門医、日本血液学会専門医、日本造血・免疫細胞療法学会専門医、日本臨床腫瘍学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本循環器学会専門医、日本心血管カテーテル治療学会専門医、日本不整脈心電学会専門医などの資格をもつ医師(教員)が中心となり、専門的な診療を行っています。急性白血病や心血管疾患など、緊急を要する患者さんは、迅速に受け入れます。

【診療方針】

造血器と固形悪性腫瘍に対し、診断時の詳細な検査でその進行度、悪性度などを評価し、最適の治療法を選択します。心血管疾患では総合内科の特徴を活かし、局所治療のみならず、全身的な合併症の診断、治療を行います。治療方針決定に際して、患者さんにはつねに正確な情報を提供すると同時に、精神的・社会的な背景を考慮した治療を選択します。さらに臨床試験の実施を通じて、医学の進歩に貢献したいと考えています。

【対象疾患】

■造血器疾患(急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、慢性骨髄性白血病、慢性リン

パ性白血病、悪性リンパ腫、成人T細胞白血病・リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄線維症、真性多血症、本態性血小板血症、再生不良性貧血、骨髄異形成症候群、出血性疾患)

■固形腫瘍(食道癌、胃癌、大腸癌、小腸癌などの消化器腫瘍、化学療法が必要な甲状腺癌、原発不明癌、肉腫、GIST、消化管神経内分泌腫瘍・癌、胚細胞腫瘍、その他様々な希少がん)

■心臓病・血管疾患(大動脈・末梢血管)

【主な検査】

骨髄穿刺、骨髄生検、腰椎穿刺、腹腔穿刺、胸腔穿刺、細胞表面抗原検査、抗体検査、遺伝子検査、消化管内視鏡、がんゲノム検査、心臓カテーテル、心血管エコー、血管内超音波検査、腹部エコー

【主な治療】

■造血器悪性腫瘍に対する抗がん剤・分子標的薬治療、自己末梢血幹細胞移植、同種骨髄移植、同種末梢血幹細胞移植、臍帯血移植、免疫細胞療法(CAR-T細胞療法)

■骨髄不全に対する免疫抑制療法、同種造血幹細胞移植

■固形腫瘍に対する抗がん剤、分子標的治療、免疫療法、がんゲノム検査に基づいた治療

■心血管疾患に対する低侵襲治療:カテーテルアブレーション、冠動脈インターベンション、末梢血管インターベンション(頸・腎・下肢動脈)、バルーン肺動脈形成術、心臓植込型電気的デバイス、構造的疾患インターベンション

【学会施設認定】

日本内科学会、日本血液学会、日本造血・免疫細胞療法学会、日本臨床腫瘍学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本循環器学会、日本不整脈心電学会、日本心血管カテーテル治療学会

免疫・膠原病・感染症内科

免疫・膠原病・感染症内科は、難治性の自己免疫疾患、感染症に対して最新の医学的知見に基づいた医療をすすめています。総合内科としての特色を活かして、さまざまな分野の専門知識や技術を駆使して診療を行っています。



科長 菊繁吉謙



顕微鏡による病原微生物の同定

【得意分野】

関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症を中心に自己免疫疾患全般に対する免疫抑制療法を行っています。重症・難治性感染症の診療に加え、基礎疾患による免疫不全状態、移植や生物学的製剤などの治療による免疫修飾状態における特殊な感染症の診断治療を行っています。発熱・炎症性疾患に対して、感染症、免疫異常、悪性疾患を含め総合的な診療を行っています。

【診療体制】

日本内科学会総合内科専門医、日本リウマチ学会専門医、日本アレルギー学会専門医、日本感染症学会専門医、Infection Control Doctorなどの資格をもつ医師(教員)が中心となり、専門的な診療を行っています。コンサルテーションを含め、他診療科との診断・治療についての連携を積極的に行っています。

【診療方針】

自己免疫疾患ではしばしば多臓器障害をきたすため、全身の臓器に対する幅広い知識を基に、関連診療科との連携をとりながら診療しています。自己免疫疾患の治療の分野は、近年抗サイトカイン療法の画期的な効果が明らかになり、大きく進歩しています。新規治療の開発や応用に取り組むために、私たちは基礎的な研究を深めながら、それを臨床に活かし発展させることに努めています。1,000床を超える病床をもつ九州大学病院内

での感染症コンサルトの一翼を担い、感染症の制御に努めています。

【対象疾患】

■膠原病・リウマチ疾患(関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎、混合性結合組織病、成人スチル病、血管炎症候群、シェーグレン症候群、抗リン脂質抗体症候群、脊椎関節炎、ベーチェット病)

■感染症・細菌感染症、真菌感染症、結核、輸入感染症、不明熱、易感染宿主や免疫不全者における感染症

【主な検査】

自己抗体検査、各種画像診断(腹部エコー、関節エコー)、細菌培養、真菌培養、抗酸菌培養、感染症の遺伝子検査

【主な治療】

■膠原病・リウマチ疾患に対する免疫抑制療法

■病原微生物の分離・同定に基づく感染症に対する抗生物質を用いた化学療法

【学会施設認定】

日本内科学会、日本リウマチ学会、日本アレルギー学会、日本感染症学会、日本環境感染学会

消化管内科

食道・胃・小腸・大腸などの消化管疾患に対して、専門医が最新の知見と技術をもとに、高度かつ専門的な診断・治療を行っています。内視鏡検査や内視鏡的治療(ESD・EMR)、カプセル内視鏡、小腸内視鏡などの先進的な機器を用いた精密な診断を実施しています。また、クローン病や潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患、消化管腫瘍、遺伝性疾患にも幅広く対応し、多職種・他診療科と連携したチーム医療により、患者さんにとって最適な医療の提供を目指しています。



科長 吾郷哲朗



内視鏡検査

【得意分野】

胃癌・大腸癌およびその他の消化管腫瘍(腺腫・GIST・神経内分泌腫瘍など)の診断と治療を専門としています。また、逆流性食道炎やアカラシアなどの食道疾患、ピロリ菌感染に関連した胃の病気にも広く対応しています。さらに、内視鏡的粘膜切除術(EMR)や粘膜下層剥離術(ESD)などの内視鏡治療や、小腸腫瘍・小腸炎に対するX線および内視鏡検査(カプセル内視鏡・ダブルバルーン小腸内視鏡)も積極的に実施しています。クローン病・潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患には分子標的治療を含む最新の医療を提供しており、家族性大腸腺腫症に対する遺伝子診断など、予防医療にも力を入れています。

【診療体制】

日本消化器病学会および日本消化器内視鏡学会の指導医・専門医を中心に、専門的な外来および入院診療を行っています。難治性疾患にも対応するため、外来担当医と病棟医師が緊密に連携し、一貫した医療体制を構築しています。また、消化器外科とも密に連携し、内科・外科の枠を超えた総合的かつ切れ目のない診療体制を整えています。

【診療方針】

とくに慢性炎症性腸疾患では、患者さんとの対話を重視し、生活スタイルや価値観に寄り添った治療方針の選択を心がけています。どのような疾患においても、わかりやすく丁寧な説明を行い、患者さんご自身が納得のうえで治療に臨めるよう支援しています。また、症例に応じて多職種・多診療科によるカンファレンスを定期的に開催し、治療方針を慎重に相談・検討する体制を整え、より専門的かつ包括的な医療の提供に努めています。

【対象疾患】

- 食道の病気: 食道癌、逆流性食道炎、食道腫瘍、アカラシアなど
- 胃、十二指腸の病気: 胃癌、胃・十二指腸潰瘍、胃炎、胃・十二指腸ポリープ、悪性リンパ腫、胃・十二指腸神経内分泌腫瘍、胃粘膜下腫瘍、消化管ポリポースなど
- 小腸の病気: クローン病、小腸出血、悪性リンパ腫、小腸腫瘍、小腸癌、腸管ペーチェット病、非特異性多発性小腸潰瘍症など
- 大腸の病気: 大腸ポリープ、大腸癌、潰瘍性大腸炎、クローン病、家族性大腸腺腫症など
- その他: 全身性の病気における消化管の病変

【主な検査】

上下部消化管内視鏡検査(超音波内視鏡検査、拡大内視鏡検査、画像強調内視鏡検査)、上下部消化管X線造影検査、超音波内視鏡下穿刺吸引法(EUS-FNA)、ダブルバルーン小腸内視鏡検査、カプセル内視鏡検査

【主な治療】

■ 内視鏡治療

内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)・内視鏡的粘膜切除術(EMR): 食道癌、胃癌、大腸癌、十二指腸腫瘍
 内視鏡的ポリープ切除術(ポリペクトミー): 食道・胃・十二指腸・大腸ポリープ
 内視鏡的止血術: 消化管出血
 内視鏡的狭窄拡張術: アカラシア、小腸狭窄
 消化管ステント留置術: 悪性腫瘍による消化管狭窄

【学会施設認定】

日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化管学会、日本カプセル内視鏡学会、日本炎症性腸疾患学会

腎・高血圧・脳血管内科

腎・高血圧・脳血管内科は、腎臓病、高血圧、糖尿病、脳卒中、動脈硬化性疾患など全身の心血管病を、総合的に診断し治療を行っています。



科長 吾郷哲朗



腎・高血圧・脳循環の回診

【得意分野】

- 腎臓病: 無症候性血尿・蛋白尿から末期腎不全に至る腎疾患の診療を行っています。
- 高血圧: 治療抵抗性高血圧、二次性高血圧、合併症を伴う高血圧、妊娠合併高血圧などを中心に診療を行っています。
- 脳卒中: 脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血などの急性期診療とともに、頸動脈や脳血管病変の精密検査も行い、脳卒中発症予防の方法を提案します。さらに、頭痛や認知症進行予防のための診療を行っています。
- 糖尿病: 血糖管理や糖尿病合併症の評価・治療を行っています。当科は日本糖尿病学会の認定教育施設です。

【診療体制】

日本内科学会専門医、日本腎臓学会専門医、日本透析医学会専門医、日本高血圧学会専門医、日本循環器学会専門医、日本糖尿病学会専門医、日本脳卒中学会専門医、日本老年医学会専門医、日本認知症学会専門医が、それぞれの専門的な診療にあたり、ともに、緊密に協力して全身の心血管病に対する包括的な医療を行います。脳卒中、急性腎疾患、高血圧緊急症に対する救急医療を積極的に行っています。

【診療方針】

心血管病の多くは救急疾患で、24時間体制で診療を行っています。また、高血圧や糖尿病などの生活習慣病の治療は長期間に及ぶため、患者さんに治療の必要性を納得してもらい、生活の質(QOL)を重視した診療を行います。

【対象疾患】

- 腎臓病: 急性および慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、膠原病に伴う腎障害、電解質異常、糖尿病性腎症、急速進行性糸球体腎炎、急性および慢

性腎不全、二次性副甲状腺機能亢進症、長期透析合併症、腎移植後など

- 高血圧: 悪性高血圧、治療抵抗性高血圧、二次性高血圧(腎血管性高血圧、内分泌性高血圧など)、合併症を伴う高血圧、妊娠合併高血圧など
- 脳卒中: 脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血、頸動脈狭窄・閉塞症、眼虚血症候群、その他の神経救急疾患(てんかん、意識障害)、頭痛、認知機能障害など
- 糖尿病: 2型糖尿病、1型糖尿病、ステロイド糖尿病、妊娠糖尿病、低血糖症など

【主な検査】

- 24時間血圧測定、ホルター心電図検査、超音波検査(腎臓、副甲状腺、心臓、頸部血管、経頭蓋超音波ドプラ、腹部血管、下肢静脈)、腎生検、脈波伝播速度(PWV)、脳波など
- 頭部CT、頭部MR、SPECT、脳血管造影検査、腎シンチ、レノグラム(放射線科と協力して行います)など

【主な治療】

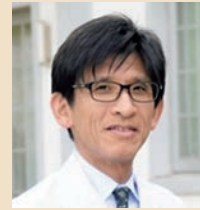
- 末期腎不全: 血液透析療法、腹膜透析療法、バスキュラーアクセス作成術、腹膜透析(CAPD)カテーテル挿入術
- 高血圧: 降圧治療 ■ ネフローゼ症候群: ステロイド治療、LDL吸着療法
- 脳卒中: 超急性期血栓溶解療法・血栓回収療法、抗脳浮腫療法、抗凝固・抗血小板療法、脳保護療法
- 糖尿病: インスリン治療、GLP-1治療、インスリンポンプ治療(CSII)

【学会施設認定】

日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会、日本高血圧学会、日本循環器学会、日本脳卒中学会、日本老年医学会、日本認知症学会、日本糖尿病学会

内分泌代謝・糖尿病内科

内分泌代謝・糖尿病内科では、内分泌疾患、糖尿病、生活習慣病の診療を中心に、最新の知見に基づく診断・治療を行っています。



科長 小川佳宏



甲状腺穿刺吸引細胞診

【得意分野】

- 内分泌代謝：下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺疾患。肥満症に対する集学的治療、二次性高血圧の鑑別診断と治療、骨代謝疾患（骨粗しょう症など）、電解質異常。免疫チェックポイント阻害薬による内分泌有害事象（irAE）への対応。
- 糖尿病：食事療法、経口糖尿病薬、GLP-1アナログ、インスリンなどによる持続血糖モニタリングを指標とした血糖コントロール。短期教育入院。最新機器を用いた糖尿病に伴う細小血管障害や動脈硬化症など合併症の評価。

【診療体制】

日本内分泌学会専門医、日本糖尿病学会専門医、日本肥満学会専門医などの資格をもつ医師が専門的な診療を行っています。長期間にわたる管理が必要が多く、病病・病診連携を有効に活用して患者さんの十分な理解が得られる説明と、それぞれの病態に応じた最適な診療を行っています。

【診療方針】

内分泌代謝領域ではわが国有数の専門施設として、外科、脳神経外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科などと連携の上、多種多様な内分泌疾患に対し、最善の治療を行っています。また、生活習慣病の背景として内分泌代謝学的成因が深く関わっていることが近年明らかになり、これら生活習慣病の診断、治療にも力を注いでいます。糖尿病は、糖尿病専門医、糖尿病療養指導士、看護師、管理栄養士、薬剤師の専門チームで診療しています。糖尿病合併症の評価と治療にも積極的に取り組む、患者さんの生活の質が向上するよう努めています。

【対象疾患】

- 内分泌代謝：下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺などの内分泌疾患と肥満症、高血圧、脂質異常症、骨粗しょう症などの生活習慣病、電解質異常

- 糖尿病：1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病、膵性糖尿病、遺伝子異常による糖尿病、低血糖症

【主な検査】

- 内分泌機能確認検査（負荷試験） ■ CT、MRI
- 超音波検査（甲状腺、副甲状腺、頸動脈、腹部）
- 甲状腺穿刺吸引細胞診 ■ 骨密度測定 ■ 精密体脂肪測定
- シンチグラフィ（甲状腺・副甲状腺・副腎・オクトレオスキャン）
- 選択的静脈サンプリング（副腎静脈、下錐体静脈） ■ 遺伝子検査
- インスリン分泌能検査、インスリン抵抗性検査（SSPG法）
- 持続血糖測定モニタリング（CGMS）
- 神経伝導速度検査、精密振動覚閾値検査、自律神経機能検査
- 脈波伝播速度測定（PWV）、ABI、CAVI、血管内皮機能検査（Endo-PAT）、頸動脈超音波検査
- 眼底写真検査 ■ PET-CT

【主な治療】

内分泌代謝：ホルモン補充療法、ホルモン合成阻害薬・受容体拮抗薬による薬物療法（機能性内分泌腫瘍）、化学療法（悪性内分泌腫瘍）、テプロツムマブ治療/ステロイドパルス・放射線療法（甲状腺眼症）、アイソトープ治療（バセドウ病・甲状腺癌・褐色細胞腫）

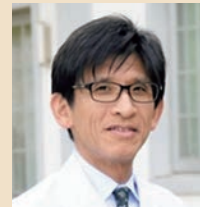
糖尿病：糖尿病教室、食事療法、運動療法、血糖降下薬内服治療、インスリン治療、インクレチン治療、持続的皮下インスリン注入療法、合併症の治療

【学会施設認定】

日本内科学会、日本内分泌学会、日本糖尿病学会、日本肥満学会

肝臓・膵臓・胆道内科

肝臓・膵臓・胆道内科は、急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝臓癌、急性膵炎、慢性膵炎、自己免疫性膵炎、膵臓癌、膵内分泌腫瘍、胆石症、胆道癌、消化管機能異常、炎症性腸疾患、消化管癌など、肝臓・膵臓・胆道・消化管疾患を中心に、最新の検査・治療を用いて診療しています。必要に応じて他科とも連携し、迅速な対応を行っています。



科長 小川佳宏



内視鏡的膵胆管造影（ERCP）

【得意分野】

- 肝臓：ウイルス性肝炎の経口剤治療、代謝機能障害関連脂肪肝炎（MASH）の評価と治療、肝臓癌のラジオ波焼灼術や化学療法、急性肝不全に対する集学的治療など
- 膵臓・胆道：膵臓癌、膵神経内分泌腫瘍と胆道癌に対する集学的治療、重症急性膵炎に対する集学的治療、慢性膵炎・自己免疫性膵炎の診断と治療、閉塞性黄疸・総胆管結石に対する内視鏡的治療
- 消化管：消化管機能異常、炎症性腸疾患、消化管癌に対する治療

【診療体制】

日本内科学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医などの資格をもつ医師が専門的な診療を行っています。急性肝不全や重症急性膵炎など、緊急を要する疾患に対しても迅速に対応しています。

【診療方針】

肝胆膵・消化管疾患は、救急疾患から悪性腫瘍まで多岐に及び、患者さん・ご家族の十分な理解が得られるよう説明し、先進的な医療も視野に入れ、新しい疾患概念の確立や難治性疾患の治療にも積極的に取り組んでいます。

【対象疾患】

- 肝臓：急性肝炎・肝不全、脂肪肝・MASH、慢性肝炎、肝硬変、肝臓癌、代謝性肝疾患、自己免疫性肝疾患など
- 膵臓・胆道：急性膵炎、慢性膵炎、膵臓癌、膵のう胞性疾患、膵神経内分泌腫瘍、自己免疫性膵炎、胆石症、胆のう炎/胆管炎、胆管癌、胆のう癌など
- 消化管疾患：食道アカラシア、胃食道逆流症、潰瘍性大腸炎、クロー

ン病、消化管癌など

【主な検査】

- 腹部エコー・CT・MRI 検査
- 肝生検、肝腫瘍生検
- 内視鏡的膵胆管造影（ERCP）・管腔内超音波検査・経乳頭の膵管鏡/胆道鏡・胆汁/膵液細胞診
- 超音波内視鏡検査（EUS）・超音波内視鏡下穿刺吸引生検法（EUS-FNA）
- 高解像度食道内圧検査、24時間食道内pH・インピーダンス検査

【主な治療】

- 経口抗ウイルス剤による慢性ウイルス性肝炎の治療
- 急性肝不全に対する集学的治療
- 肝臓癌に対する局所療法：エタノール注入療法、ラジオ波焼灼療法
- 肝硬変合併症に対する治療
- 肝・膵・胆道癌の集学的治療
- 閉塞性黄疸・総胆管結石・膵仮性のう胞などの内視鏡的治療
- 急性膵炎・慢性膵炎の診断と治療
- 自己免疫性肝炎・自己免疫性膵炎の診断と治療
- 食道アカラシアに対する経口内視鏡的筋層切開術（POEM）
- 胃食道逆流症に対する内視鏡的逆流防止粘膜切除術（ARMS）
- 消化管癌に対する内視鏡的粘膜切開剥離術（ESD）

【学会施設認定】

日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会、日本胆道学会、日本膵臓学会、日本消化管学会

心療内科

日本で最初に開設された心療内科です。身体疾患の中でも、発症や経過に心理社会的因子が密接に関与し、器質的・機能的障害を認める病態(心身症)の治療を行っています。心理療法を用いて症状の改善を目指す内科です。



科長 須藤信行



医局カンファレンス

【得意分野】

ストレスなど心理社会的因子の影響が大きい身体疾患の治療を行います。疾患や症状の評価に際し、各種身体検査に加えて、心理社会的背景を聴取します。心身相関の可能性を検討し、身体面・心理面の両面から治療を行います。

【診療体制】

日本内科学会総合内科専門医、日本心身医学会・日本心療内科学会合同心療内科専門医、日本アレルギー学会専門医、日本糖尿病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本プライマリ・ケア連合学会認定医などの資格をもつ医師が連携して診療にあたります。臨床心理士・公認心理師が診療をサポートします。

【診療方針】

特定の疾患や症状に限定せず、患者さんの心理社会的背景なども考慮して、個々人に合った総合的な診断・治療を行っています。一般的な内科診療と心理療法を組み合わせ、心身両面から治療を行います。

【対象疾患】

気管支喘息、本態性高血圧、機能的ディスペプシア、過敏性腸症候群、潰瘍性大腸炎、嘔吐症、摂食障害、肥満症、糖尿病、甲状腺機能亢進症、慢性疼痛、アトピー性皮膚炎、睡眠障害、自律神経失調症など

【主な検査】

各種心理テスト、自律神経機能検査、基礎代謝測定、腹部超音波検査、頭部MRI、脳波検査、終夜睡眠ポリグラフィなど

【主な治療】

- 心理療法: 認知行動療法、自律訓練法、交流分析、家族療法、芸術療法(絵画療法、箱庭療法)、遊戯療法、ヨガ療法、内観療法、動機づけ面接、アクセプタンス&コミットメント・セラピー、弁証法的行動療法、摂食障害に対する認知行動療法(CBT-E)、支持的心理療法など
- 薬物療法: 身体疾患の治療薬、向精神薬、漢方薬など

【学会施設認定】

日本内科学会、日本心身医学会、日本心療内科学会、日本アレルギー学会、日本糖尿病学会(教育関連施設)、日本肥満学会

脳神経内科

脳神経内科の担当領域は、てんかん、認知症、頭痛などの頻度の高い神経疾患から多発性硬化症、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症などの神経難病まで多岐にわたり、最先端の医療を行っています。



科長 磯部紀子



病棟カンファレンスの様子

【得意分野】

多発性硬化症などの免疫性神経疾患にさまざまな免疫療法を実施しています。各種神経変性疾患における診断と治療のほか、ブレインセンターで脳機能の総合的評価をさまざまな最新機器を用いて行い、てんかんや認知症などの脳機能解析と治療に取り組んでいます。各種臨床試験も積極的に行っています。

【診療体制】

日本神経学会認定神経内科専門医(教員・医員など)が連携して専門的な診療にあたっています。福岡県てんかん支援拠点病院として地域のとんかん診療を担っています。福岡市認知症疾患医療センターとして認知症専門外来を精神科神経科と共同で実施しています。福岡県難病ネットワークの難病診療連携拠点病院として、地域における神経難病患者さんの療養環境整備にも取り組んでいます。

【診療方針】

丁寧な問診と診察、わかりやすい説明を診療の基本方針としています。各種抗体製剤や核酸医薬など最先端の脳神経内科医療を提供し、地域医療機関と連携した診療と療養環境整備を行います。

【対象疾患】

神経変性疾患(パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、アルツハイマー病など)、免疫性神経疾患(多発性硬化症、視神経脊髄炎スペクトラム障害、ギラン・バレー症候群、重症筋無力症、慢性炎症性脱髄性多発神経炎、筋炎など)、てんかん、感染性疾患(脳炎、髄膜炎など)、脳血管障害、その他(頭痛、筋ジストロフィーなど)

【主な検査】

- 神経伝導検査、針筋電図、誘発電位、脳波
- 長期脳波ビデオ同時記録検査、終夜睡眠ポリグラフィ
- 神経画像検査(CT、MRI、脳血流シンチ、ドパミントランスポートシンチ、PETなど)
- 頸動脈エコー、高次脳機能検査、自律神経機能検査、電流知覚閾値検査など
- 髄液検査、筋生検、遺伝子検査、特殊抗体検査

【主な治療】

- 免疫性神経疾患: 免疫グロブリン大量静注療法、血漿交換療法、ステロイド大量静注療法、疾患修飾薬、免疫抑制剤、各種分子標的治療(抗体製剤)
- パーキンソン病: レボドパ、ドパミン受容体刺激薬、各種デバイス療法など
- 筋萎縮性側索硬化症: リルゾール、エダラボン、トフェルセンなど
- てんかん: 抗発作薬、脳神経外科と共同でてんかん外科手術
- アルツハイマー病: ドネペジル、メマンチン、ガランタミン、リバスチグミン、レカネマブ、ドナネマブ
- 各種代謝性疾患: 酵素補充療法
- 片頭痛: トリプタン製剤、分子標的治療(抗体製剤)

【学会施設認定】

日本神経学会、日本内科学会、日本脳卒中学会、日本てんかん学会、日本認知症学会、日本頭痛学会、日本睡眠学会

循環器内科

心筋梗塞・狭心症から心不全、不整脈、弁膜症、肺高血圧症、成人先天性心疾患まで、科学的根拠に基づいた適切な治療を心がけ、先進医療にも積極的に取り組んでいます。



科長 阿部弘太郎



心臓カテーテル検査

【得意分野】

心筋梗塞、狭心症、心不全、不整脈、弁膜症、肺高血圧症、静脈血栓症などすべての循環器(心臓・血管)疾患の診療を行います。また小児科とも連携して成人先天性心疾患の診療も行っています。冠動脈疾患治療部(CCU)と連携し、虚血性心疾患に対する冠動脈インターベンション、各種不整脈に対するカテーテルアブレーション、重症心不全に対する両心室ペースティング、左室補助人工心臓、心臓移植(心臓血管外科と連携)、運動療法、肺動脈性肺高血圧症に対するPGI2持続静注療法や慢性血栓性肺高血圧症に対するバルーン肺動脈形成術、さらには経皮的心房中隔欠損閉鎖術(ASO)、経皮的卵円孔閉鎖術、経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)、経カテーテル肺動脈弁置換術(TPVI)、経皮的カテーテル僧帽弁修復術(心臓血管外科と連携)、補助人工心臓や心臓移植後管理など他院で治療困難な症例も積極的に診療しています。

【診療体制】

外来はおもに教員が担当し、病棟は教員、医員、研修医がチームを組んで診療にあたっています。CCUと併せて15名の教員、11名の医員、内20名が循環器専門医です。入院診療は主治医の上に指導医、疾患別カンファレンス、教授(科長)回診があり、三重のチェック体制をとっています。夜間帯は医師2名(内1名がCCU)が常駐しています。

【診療方針】

胸痛、動悸、息切れ、失神などの症状で循環器疾患かどうかはつきりしない症例についても、すべて診療します。外来で入院精査が必要かどうかなどの判断を行います。病診連携を積極的に進め、退院後安定した症例の投薬治療は原則としてかかりつけ診療所・病院にお願いしています。その後も緊急時には24時間対応しています。

【対象疾患】

入院症例の内訳は、急性心筋梗塞症や狭心症などの虚血性心疾患、心不全、不整脈がほぼ半数で、先天性心疾患、弁膜症、肺高血圧症、動脈疾患、静脈血栓症などが続いています。

【主な検査】

心臓カテーテル検査(IVUS、OCT、FFRを含む)、心臓超音波検査(3D、2Dストレイン、経食道を含む)、血管超音波検査、脈波伝播速度検査、ホルター心電図、トレッドミルテスト、心肺運動負荷試験、ポリソムノグラフィ、心臓核医学検査、冠動脈CT、FFR_{CT}、心臓MRI、心臓PET-CT

【主な治療】

冠動脈インターベンション(ロータブレードを含む)、末梢血管形成術、経皮的僧帽弁交連切開術、下大静脈フィルタ、カテーテルアブレーション、永久ペースメーカー植込み*、植込み型除細動器(ICD)*、両心室ペースティング(CRT)、経皮的リード抜去術、大動脈バルーンポンピング、ECMO、補助循環用ポンプカテーテル、経皮的心房中隔欠損閉鎖術、経皮的卵円孔閉鎖術、経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)*、経カテーテル肺動脈弁置換術(TPVI)、経皮的カテーテル僧帽弁修復術*、経皮的左心耳閉鎖術、バルーン肺動脈形成術、下肢静脈インターベンション、補助人工心臓*、心臓移植*

*は、心臓血管外科と連携

<https://www.cardiol.med.kyushu-u.ac.jp>

【学会施設認定】

日本内科学会、日本循環器学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本不整脈学会、日本動脈硬化学会、日本高血圧学会、日本心臓リハビリテーション学会、日本成人先天性心疾患学会

呼吸器内科

肺癌や間質性肺疾患などの難治性呼吸器疾患をはじめとし、肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患などのcommon disease さらには膠原病、サルコイドーシスなど全身疾患に伴う肺病変など多岐にわたる病態を診療しています。



科長 岡本 勇



カンファレンスの風景

【得意分野】

肺癌を中心とした腫瘍性呼吸器疾患が入院症例の約8割を占め、ゲノム医療、免疫チェックポイント阻害剤を含む薬物療法など最新のエビデンス(科学的根拠)に基づく標準治療の実践を基本としています。さらに大学病院のミッションである最新治療を提供すべく、多くの医師主導臨床試験および新薬開発を目的とした企業治験、医師主導治験に積極的に取り組んでいます。間質性肺炎、重症喘息など治療困難症例に関しても最新治療に取り組んでいます。

【診療体制】

日本呼吸器学会専門医11名(指導医7名)、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医4名(指導医4名)、癌治療認定医3名、日本感染症学会専門医1名、日本結核・非結核性抗酸菌症学会 結核・抗酸菌症認定医2名、日本救急医学会専門医1名と、幅広くさまざまな呼吸器疾患に精通した専門医を配しています。「肺癌」「喘息・COPD」「感染症・びまん性肺疾患」の診療グループごとにカンファレンスを行い、治療方針を決定しています。また外科、放射線科とも合同カンファレンスを実施し、診療科横断的な診断・治療を展開しています。

【診療方針】

エビデンスに基づく実践を基本とし、難治性呼吸器疾患の治療成績向上を目指した新たなエビデンスを創出すべく臨床研究を積極的に展開しています。チームとして診療方針を決定し、患者さ

んに納得して治療を受けていただけるように、病状、治療方針についてわかりやすく説明することを心がけています。

【対象疾患】

腫瘍性呼吸器疾患(原発性肺癌、悪性胸膜中皮腫、縦隔腫瘍など)。びまん性肺疾患(特発性間質性肺炎、膠原病関連、薬剤性肺障害、サルコイドーシスなど)。慢性気道疾患(気管支喘息、COPDなど)。感染症(重症肺炎、肺真菌症など)。その他、自然気胸、急性呼吸促迫症候群、慢性呼吸不全。

【主な検査】

肺機能検査、気管支鏡検査(クライオ生検を含む)、胸部CT検査、MRI検査、FDG-PET検査、遺伝子パネル検査、胸腔鏡検査、肺換気血流シンチ検査

【主な治療】

- 肺癌:がんゲノム医療(分子標的治療薬)、免疫チェックポイント阻害剤、化学療法
- 間質性肺炎:抗線維化薬、ステロイド、免疫抑制剤
- 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患:吸入療法、生物学的製剤
- 感染性疾患:抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬

【学会施設認定】

日本内科学会、日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本臨床腫瘍学会、日本アレルギー学会、日本感染症学会

産科婦人科

産科婦人科は1905年に婦人科学産科学講座として開講された本学でもっとも古い講座の一つで、婦人科腫瘍、生殖内分泌、周産期、女性ヘルスケアを含む産科婦人科全般に関して診療を行っています。

【得意分野】

- 婦人科悪性腫瘍に対する集学的治療、がん遺伝子パネル検査に基づくがんゲノム医療、子宮頸癌・体癌に対する鏡視下手術・センチネルリンパ節ナビゲーション手術・子宮頸癌に対する妊孕性温存手術（広汎子宮頸部摘出術）。
- 内視鏡手術（婦人科良性腫瘍・異所性妊娠に対する腹腔鏡手術、子宮鏡手術、過多月経に対するMEA）、人工授精・体外受精を含めた不妊治療、がん生殖医療としての卵子凍結・胚凍結、中高年女性退行性疾患に対する集学的治療。
- ハイリスク妊婦の妊娠・分娩・産褥管理並びに、疾病胎児の診断・胎児治療

【診療体制】

日本産科婦人科学会（専門医25名）、日本婦人科腫瘍学会（専門医7名）、日本周産期・新生児医学会（専門医6名）、日本臨床細胞学会（専門医2名）、日本超音波医学会（専門医2名）、日本生殖医学会（専門医2名）、日本がん治療認定医機構（認定医9名）、日本産科婦人科内視鏡学会（技術認定医4名）、臨床遺伝専門医1名、女性ヘルスケア専門医5名が専門的な診療にあたっています。

【診療方針】

当科は九州一円における高次診療ならびに教育研修施設として一般的な産科婦人科診療に加えて先端的な診療を行っています。

今後も地域の病院と連携しながら、ハイリスク疾患や高度医療に特化した診療を目指していきます。

【対象疾患】

診療対象である疾患は、婦人科悪性・良性腫瘍、不妊・内分泌疾患、性器の形態異常、女性の加齢に伴う疾患、ハイリスク妊娠および分娩・産褥合併症、胎児異常などです。

【主な検査】

超音波検査：経腹的・経腔的に異常の有無を検査します。
内視鏡検査：子宮腔部拡大鏡検査や子宮鏡検査を行っています。
羊水・臍帯血検査：染色体検査、遺伝子解析、胎児血検査などを行っています。

【主な治療】

子宮頸癌・体癌に対する鏡視下手術（腹腔鏡手術、ロボット支援手術）やセンチネルリンパ節ナビゲーション手術、将来の妊娠を可能とする子宮頸癌に対する広汎子宮頸部摘出術等の低侵襲手術・機能温存治療を積極的に行っています。婦人科良性疾患・不妊・内分泌疾患に対しては腹腔鏡・子宮鏡手術、人工授精・体外受精を含めた不妊治療、さらに産科領域では胎児水腫、胎児不整脈、閉塞性尿路障害の疾病胎児を対象に胎児治療を行っています。

小児科

将来を担う子どもの健康を、最先端の医療を通じてやさしく支援します。2013年2月に小児がん拠点病院、5月に小児救命救急センターの指定を受けました。2014年4月に成人診療科への移行期医療をサポートするトランジショナルケア外来を、2020年3月に小児AYA世代がんフォローアップ外来を開設しました。



科長 酒井康成

【得意分野】

経験豊かな専門グループのスタッフが協力し、一般診療から高度・先進医療まで、さまざまな疾患に広く深く専門的に対応します。

【診療体制】

60名の小児科医師（うち小児科学会専門医50名）で診療を行います。

【診療方針】

“すべての子どもに夢と希望と輝く笑顔を”をモットーに、高度な専門性と総合力で、安心できる医療を実践します。

【対象疾患】

- 免疫・血液疾患：免疫不全症、自己免疫疾患、自己炎症性疾患、血球貪食症候群、造血障害や血友病、炎症性腸疾患など
- 腫瘍：小児白血病や悪性リンパ腫・すべての小児固形腫瘍
- 感染症・アレルギー：小児感染症全般。海外渡航者を含めた予防接種（予約制）。アレルギー、気管支喘息
- 循環器疾患：先天性心疾患や川崎病などの後天性心疾患、不整脈、心疾患手術の周術期管理、成人先天性心疾患、心筋炎や心筋症などの重症心不全
- 神経疾患：てんかん、発達遅滞、脳性麻痺、脳炎・脳症、脳血管障害、代謝・変性疾患、神経筋疾患、こころの診療（児童精神科と共同の「子どものこころの診療部」）、神経難病に対する遺伝子治療
- 腎疾患：先天性腎尿路異常、腎炎、ネフローゼ症候群、遺伝性

腎症など。腹膜透析や、血液透析、腎移植前後の管理

- 新生児：極低出生体重児のフォローアップ健診と発達検査、在宅療養指導、合併疾患児のトータルケアなど
- 内分泌：先天代謝異常症・遺伝性疾患：低身長、甲状腺・副腎・性腺などの内分泌疾患、糖尿病、先天代謝異常症と遺伝相談など
- 小児救命救急・集中治療：人工呼吸、血液透析、ECMOなど重症対応
- 小児緩和ケアチーム：すべての子どもが対象

【主な検査】

フローサイトメーター検査、心臓カテーテル検査、腎生検、内分泌負荷試験、遺伝学的検査、ビデオ脳波、非侵襲性脳機能計測など

【主な治療】

- 造血細胞移植（白血病、固形腫瘍、造血・免疫異常など）、CAR-T療法、酵素補充・遺伝子治療など
- カテーテル手術：バルーンによる弁・血管形成術、コイル塞栓術、ステントを使用した血管形成術、不整脈に対するカテーテルアブレーション（焼灼術）など

【学会施設認定】

日本小児科学会、日本小児循環器学会、日本小児神経学会、日本小児血液がん学会、日本周産期・新生児医学会、日本人類遺伝学会、日本内分泌学会、日本血液学会、日本造血・免疫細胞療法学会、日本腎臓学会、日本てんかん学会

消化管外科

食道・胃・大腸のがん治療を中心に診療を行っています。消化管内科や肝臓外科、呼吸器外科、血液腫瘍内科、放射線科などの診療科との連携を通して、化学療法や放射線治療など総合的な診療を行い、がんの根治を目指します。また最新の薬剤だけでなく、治験薬も使用できる場合があります。

【得意分野】

食道、胃、大腸はそれぞれの分野でロボット支援下を含む内視鏡外科手術を行い、根治性と機能温存の両立を実現しています。食道癌は早期がんだけでなく、切除が困難と考えられる患者さんにも、抗がん剤や放射線治療で腫瘍を小さくして、積極的に手術を行っています。胃癌の手術では切除から再建まですべての手術操作をロボット支援下を含む腹腔鏡で行う、完全腹腔鏡手術をほぼ全例取り入れています。大腸の手術のほぼ全例をロボット支援下を含む腹腔鏡で行っています。炎症性腸疾患(クローン病や潰瘍性大腸炎)は、患者さん個々に最適な治療を選択しています。

【診療体制】

日本外科学会専門医:14名 日本外科学会指導医:8名 日本消化器外科学会専門医:14名 日本消化器外科学会指導医:9名 日本内視鏡外科学会技術認定医:11名 ロボット支援手術ブロッカー:8名 日本食道学会食道外科専門医:2名 日本食道学会食道科認定医:4名 日本大腸肛門病学会専門医:2名 日本大腸肛門病学会指導医:2名 日本がん治療認定医機構認定医:11名 日本遺伝性腫瘍学会専門医:2名 がん薬物療法専門医:2名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医:1名 日本消化器病学会専門医:3名 日本消化器病学会指導医:1名などの専門的なスタッフが十分な知識と技術をもって診療にあたります。

【診療方針】

ロボット支援下を含む内視鏡外科手術をはじめとした多彩な治療法を提案し、患者さんに十分説明して理解を得たうえで、もっとも適した治療を選択します。患者さんの生活の質が可能な限り維持できるような医療を実践するため、さまざまな分野の専門家が連携して相談しながら診療に取り組

んでいます。

【対象疾患】

食道:食道癌、食道憩室、食道破裂、食道裂孔ヘルニア、食道良性腫瘍、食道胃接合部癌、逆流性食道炎、食道アカラシア

胃・十二指腸:胃癌、十二指腸癌、消化管間葉腫瘍(GIST)、神経内分泌腫瘍(NET, NEC)

小腸:炎症性腸疾患、小腸癌、消化管間葉腫瘍(GIST)、神経内分泌腫瘍(NET, NEC)

大腸:大腸癌(結腸癌、直腸癌、肛門管癌)、消化管間葉腫瘍(GIST)、神経内分泌腫瘍(NET, NEC)、炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病)、家族性大腸腺腫症、肛門疾患(直腸脱、痔ろう癌)

【主な検査】

上部消化管内視鏡・透視、下部消化管内視鏡・透視、超音波内視鏡、CT、MRI、腹部超音波、PET検査、肛門機能検査

【主な治療】

■低侵襲手術:胸腔鏡・腹腔鏡下手術(食道切除再建術、胃切除術、胃全摘術、結腸切除術、直腸切除術、大腸全摘)、単孔式腹腔鏡手術(結腸切除術)、ロボット支援下手術(食道癌、胃癌、大腸癌(結腸、直腸)、LECS(胃GIST))

■一般開腹手術:結腸切除術、直腸切除術、骨盤内臓全摘術

■化学療法:術前術後の補助化学療法や局所進行、再発がんに対する化学療法

【学会施設認定】

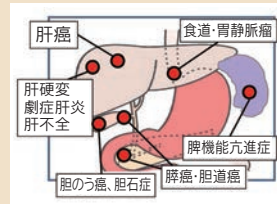
日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化器病学会、日本大腸肛門病学会、食道外科専門医認定施設

肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科

肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科の担当する専門領域は、肝臓・胆道・脾臓、脾臓・門脈、肝臓移植で、それらの各領域の専門家が有機的に繋がりをもちて患者さんの診療を行っています。



科長 吉住朋晴



主な対象疾患

【得意分野】

肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科では肝臓・脾臓、肝臓移植、門脈圧亢進症の疾患を対象に、手術をはじめとして、低侵襲的治療、薬物療法、また最新の治療を行っています。肝臓の手術では腹腔鏡下やロボット支援の肝切除を積極的に取り入れ、身体にやさしい手術を目指しています。肝臓移植の症例数は1,100例を超え、良好な成績をおさめています。当科は、脳死肝移植の認定施設として現在までに114例(2026年4月1日現在)の脳死肝移植を行っています。また、胆道・脾臓癌に対しても治療を行っております。

【診療体制】

日本外科学会(指導医2名、専門医7名)、日本消化器外科学会(指導医5名、専門医7名)、日本肝臓学会(指導医3名、専門医7名)、日本肝胆脾外科学会(高度技能指導医2名、専門医5名)、日本内視鏡外科学会(技術認定医1名)、日本移植学会(移植認定医4名)、日本がん治療認定医機構(認定医7名)が専門的な診療にあたっています。

【診療方針】

患者さんに十分に説明した上で、もっとも適した治療法を選択することを基本としています。患者さんには高度の専門知識をもったスタッフがチーム診療にあたります。患者さんに優しい医療の実践のため、各疾患の専門家が皆でディスカッションし

ながら診療に取り組んでいます。

【対象疾患】

■肝臓外科:原発性肝癌、転移性肝癌、胆道癌、脾臓癌

■肝臓移植外科:末期肝不全(B/C型肝硬変、原発性胆汁性胆管炎、アルコール性肝硬変、非アルコール性肝硬変)、肝細胞癌、劇症肝炎、先天性代謝異常疾患

■脾臓門脈外科:門脈圧亢進症、食道静脈瘤、脾腫瘍、脾機能亢進症、脾臓摘出を要する血液疾患

【主な治療】

■肝臓・胆道・脾臓の悪性腫瘍(主にがん)に対する手術

■生体肝移植・脳死肝移植

■肝臓・胆道・脾臓の悪性腫瘍に対する薬物療法

■脾機能亢進症・門脈圧亢進症に対する手術

■低侵襲治療:腹腔鏡下肝切除術、ロボット支援肝切除、腹腔鏡下脾臓摘出術

【学会施設認定】

日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器病学会、日本肝臓学会、日本胆道学会、日本肝胆脾外科学会、日本肝臓学会脳死肝移植実施施設、日本内視鏡外科学会

胆道・膵臓・膵臓移植・腎臓移植外科

胆道、膵臓外科部門では、肝臓、胆のう、胆管、膵臓、脾臓などの悪性疾患や、胆石などの良性疾患の外科手術と、内視鏡を用いた診断と治療(ERCP、PTCD)を行っています。膵臓移植・腎臓移植外科については、腎不全で透析中あるいは透析導入予定の患者さんに対する腎臓移植や、重症糖尿病患者さんに対する膵臓移植などを行っています。患者さんにやさしく、また、患者さん一人ひとりに応じた医療の実践を心がけています。

【得意分野】

肝胆膵領域癌に対する根治術のほか、胆石症や膵臓腫瘍・胆道拡張症に対するロボット支援下手術、内視鏡外科手術も行っています。また、肝内結石症や総胆管結石症などに対する内視鏡的治療(ERCP、PTCD)にも取り組んでいます。生体腎臓移植のドナー手術(腎臓摘出術)は、全例で内視鏡外科手術を適応し、患者さんの負担の軽減を目指しています。

【診療体制】

日本外科学会指導医・専門医、日本消化器外科学会指導医・専門医、日本肝胆膵外科学会高度技能医、日本移植学会認定医、日本内視鏡外科技術認定医など、専門のスタッフが十分な知識と技術をもって診療にあたっています。救急疾患も常時受け付け、責任をもって対応します。

【診療方針】

患者さんに対して、主治医・担当医を中心に、各疾患グループが診療にあたるグループ診療を基本としています。治療の開始にあたっては、ロボット支援下手術、内視鏡外科手術をはじめとした多彩な選択肢を提案し、患者さんに十分な理解と了承を得られるよう、留意しています。内科との緊密な連携により、手術後も継続して治療が受けられるよう配慮しています。

【対象疾患】

肝臓癌、胆のう癌、胆管癌、膵臓癌、十二指腸癌、肝内結石症、胆のう結石症、総胆管結石症、胆道拡張症、慢性腎不全、重症糖尿病(1型糖尿病を含む)など

【主な検査】

内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)、経皮経肝的胆管ドレナージ(PTCD)、超音波検査など

【主な治療】

- 一般開腹手術(膵頭十二指腸切除、膵分節切除、膵体尾部切除、肝切除)
- 移植手術(腎臓移植、膵臓移植)
- ロボット支援下手術:ロボット支援下膵切除術
- 内視鏡外科手術:膵臓腫瘍に対する腹腔鏡下膵切除、腹腔鏡下胆のう摘出、腹腔鏡下総胆管切開切石、腹腔鏡下脾臓摘出、先天性胆道拡張症手術(腹腔鏡下肝外胆管切除、胆道再建)、後腹膜鏡下ドナー腎採取術など
- 内視鏡治療(内視鏡的十二指腸乳頭切開・切石、胆道内視鏡下切石)
- 化学療法

【学会施設認定】

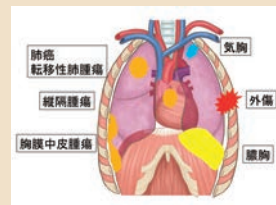
日本外科学会、日本消化器外科学会、日本肝胆膵外科学会、日本消化器内視鏡学会、膵臓移植認定施設、日本胆道学会

呼吸器外科

肺・縦隔などの胸部疾患に対する専門的な診療を行っています。近年増加している肺癌をはじめ、さまざまな呼吸器系悪性腫瘍について、総合的な診断や手術を中心とした治療、術後の再発に対する薬物治療を行っています。呼吸器内科、放射線科、病理部などと緊密に連携を行い、がんの根治を目指します。



科長 竹中朋祐



呼吸器外科疾患

【得意分野】

気管支、肺、縦隔、胸壁などに起こる病気、とくに悪性腫瘍を対象に、手術をはじめ抗がん剤治療や、複数の治療を組み合わせた集学的治療、最新の治療に至るまで幅広く取り組んでいます。ほとんどの手術に胸腔鏡を使用し、より小さな創で、できるだけ低侵襲な治療を心がけています。さらに近年は、ロボット支援下手術を導入し、より精密で痛みの少ない手術を行うことにより、入院期間の短縮を図っています。

【診療体制】

日本外科学会(指導医1名・専門医5名)、日本呼吸器外科学会(専門医5名)、日本がん治療認定医機構(認定医3名)が専門的な診療にあたっています。

【診療方針】

患者さんに十分に説明した上で、もっとも適した治療法を選択することを基本としています。それぞれの患者さんには疾患の専門家が主治医となって診療にあたりますが、外科に加えて内科や放射線科の専門医も交えたカンファレンスを行い、診療科横断で取り組んでいます。

【対象疾患】

原発性肺癌、転移性肺腫瘍(他臓器がんの肺転移)、縦隔腫瘍(胸腺腫、神経原性腫瘍など)、胸壁腫瘍(肋骨を含めた腫瘍)、悪性胸膜中皮腫、気胸、炎症性疾患(肺化膿症、膿胸、縦隔炎など)、重症筋無力症

【主な治療】

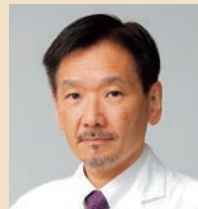
- 肺悪性腫瘍手術:呼吸器外科で行う手術の約半数は原発性肺癌に對してです。原発性肺癌に対する標準的な手術は、がんの発生した肺葉を切除し、同時に周囲のリンパ節を摘除(専門的には'リンパ節郭清'と呼びます)します。患者さんの状況によっては、切除する範囲を小さくする縮小手術(区域切除や部分切除)を行います。また、肺以外の臓器にできたがんが肺に転移してできた転移性肺腫瘍に対しても、積極的に肺切除を行っています。ほとんどの手術を胸腔鏡を用いた低侵襲な手術で行っています。
- 低侵襲治療:胸腔鏡下手術、ロボット支援下手術
- 拡大手術:周囲臓器に進行した肺癌や縦隔腫瘍に対して、抗がん剤治療に手術や放射線治療を組み合わせた集学的治療を行っています。

【学会施設認定】

日本外科学会、日本呼吸器外科学会

乳腺外科

日本と世界のエビデンスとガイドラインに基づいて、個人の背景と病状に応じた適切な治療を提供します。手術・化学療法・放射線療法・分子標的治療などを組み合わせたチーム医療と医療連携で、個人を尊重した治療を目指します。また、患者さんの利益に配慮し、紹介を受けた地元の医院・病院との連携を大切に継続します。



科長 久保 真

【得意分野】

原発乳癌に対して、最新のエビデンスに基づき適切な手術と薬物療法を提供します。十分な根治性と低侵襲性、整容性の両立を目指しています。また、再発乳癌に対しては、患者さんにがんゲノム医療に基づく薬物療法、臨床試験参加への道を開きます。

【診療体制】

日本乳癌学会乳腺専門医(3名)、うち指導医(1名)、乳がん看護認定看護師など十分な知識と技術をもった専門スタッフが診療にあたります。また、臨床遺伝専門医(1名)が遺伝性腫瘍に関する相談、診療に対応します。

■遺伝カウンセリング外来(臨床遺伝診療部と連携)

■がんゲノム外来(乳癌)

■セカンドオピニオン(専門医による)

【治療方針】

患者さん一人ひとりに対して、主治医・担当医を中心に、全スタッフが診療にあたるグループ診療を基本としています。治療の開始にあたっては、カンファレンスを経て治療方針を立て、患者さんにその治療内容を十分に説明し、理解と同意を得て診療にあたります。また、さまざまな分野の専門スタッフと連携し、チーム医療を心がけています。

【対象疾患】

乳腺悪性腫瘍(乳癌など)、乳腺良性腫瘍(葉状腫瘍、線維腺腫、乳管内乳頭腫など)など

【主な検査】

マンモグラフィ、乳房超音波検査、穿刺吸引細胞診(FNA)、針生検(CNB、VAB)、CT、乳腺MRI、骨シンチ、PET、骨塩定量など、迅速・確実な診断を心がけています。

【主な治療】

■手術:乳房部分切除術(鏡視下を含む)、乳房全切除術、センチネルリンパ節生検(色素+PI併用法)、腋窩リンパ節郭清(レベルⅢまで可能)、腫瘍摘出術、再建(形成外科と連携)

■薬物療法:内分泌療法、分子標的治療、化学療法、免疫療法

■放射線治療(放射線科と連携)

■緩和医療(緩和ケアチーム、医療連携室、患者サービス課と連携)

【学会施設認定】

日本外科学会、日本乳癌学会、日本乳房オンコプラステックサージャリー学会、日本人類遺伝学会

内分泌外科

内分泌外科では、甲状腺、副甲状腺疾患の外科的治療を中心に、診断から治療まで患者さん一人ひとりの病状に応じた最善の診療を提供します。セカンドオピニオンにも対応しています。

【得意分野】

甲状腺切除、副甲状腺切除など、根治性と低侵襲性の両立を目指しています。

【診療体制】

内分泌外科のスタッフが、十分な知識と技術をもって診療にあたっています。

【診療方針】

患者さん一人ひとりに対して、主治医・担当医を中心に、全スタッフが診療にあたるグループ診療を基本としています。治療の開始にあたっては、多彩な診療方針を提示し、インフォームドコンセントの原則のもと、患者さんに十分な理解と了承を得られるよう、留意しています。

【対象疾患】

甲状腺癌、バセドウ病、原発性・続発性副甲状腺機能亢進症など

【主な検査】

超音波検査、CT検査、穿刺吸引細胞診、核医学検査など

【主な治療】

手術:甲状腺切除術、副甲状腺切除術など

【学会施設認定】

日本外科学会、日本内分泌外科学会、日本甲状腺外科学会

血管外科

血管外科は主に動脈瘤(胸腹部、腹部、末梢血管)、動脈閉塞(慢性閉塞、急性閉塞)や下肢静脈瘤の治療を担当しています。



科長 吉住朋晴



血管外科シエマ

【得意分野】

動脈瘤や動脈閉塞、下肢静脈瘤に対する外科的手術とカテーテル治療。

バージャー病、腎動脈狭窄症、シャント合併症や血管外傷などに対する加療も行っています。

【診療体制】

日本外科学会(専門医3名・指導医1名)、日本心臓血管外科(専門医3名・修練指導医1名)、関連10学会構成ステントグラフト実施基準管理委員会認定胸部大動脈ステントグラフト実施医、腹部大動脈ステントグラフト実施医・指導医、脈管学会専門医、日本血管外科学会認定血管内治療認定医が診療にあたっています。

【診療方針】

外科的手術とカテーテル治療の両方の選択肢を有することで、患者さんの状態に応じた術式選択を行っています。

【対象疾患】

大動脈瘤、動脈閉塞、下肢静脈瘤

【主な検査】

上下肢血圧比(ABI)、趾尖脈波(TBI)、皮膚還流圧(SPP)、レーザードップラー、下肢血管エコー、造影CT、MRI、血管造影

【主な治療】

胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフトや人工血管置換術、下肢動脈閉塞に対するカテーテル治療やバイパス手術、下肢静脈瘤に対するラジオ波治療、血管内塞栓術など。

【学会施設認定】

心臓血管外科専門医認定基幹施設

胸部・腹部大動脈ステントグラフト指導医在籍施設

浅大腿動脈ステントグラフト実施施設

脈管学会認定研修指定施設

下肢静脈瘤血管内治療実施施設

整形外科

整形外科は骨・関節・脊椎・神経などの運動器疾患全般を対象とする診療科です。股関節、膝関節、骨軟部腫瘍、脊椎、足、上肢、肩関節、リウマチ、小児、スポーツ、骨粗鬆症など、各分野の専門家によって、年間1,500件以上の手術を行っています。

【得意分野】

人工関節置換術、骨切り術、骨軟部腫瘍手術、側わん症手術をはじめ、整形外科における高度な技術を必要とする手術を行っています。本院整形外科で考案され世界に広まった大腿骨頭回転骨切り術や、寛骨臼移動術などを行い、優れた成績を報告しています。低侵襲手術として脊椎内視鏡、膝・足・肩・肘関節鏡などを行っています。また人工関節置換術ではコンピューター・ロボット支援手術を取り入れています。

【診療体制】

日本整形外科学会専門医資格をもつ23名の教員が、各専門グループ(股関節、膝関節、骨軟部腫瘍、脊椎、関節リウマチ、手・上肢、足、小児整形外科、スポーツ、骨粗鬆症)を担当しています。

【診療方針】

患者さんの病状は一人ひとり異なります。私たちは、患者さんにとって最も適切な治療を提供できるよう、手術だけでなく、薬物療法やリハビリテーションを含めた保存的治療にも対応し、最新の知識と技術に基づいて診療を行っています。また、十分な説明と同意のもと、思いやりのある医療を心がけています。

【対象疾患】

- 股関節疾患: 変形性股関節症、大腿骨頭壊死など
- 膝関節疾患: 変形性膝関節症、半月板、靭帯損傷など
- 骨軟部腫瘍: 骨腫瘍、軟部腫瘍(良性および悪性)
- 脊椎疾患: 脊柱管狭窄症、側わん症、脊柱靭帯骨化症、脊髄腫瘍

など

■ 肩関節疾患: 腱板断裂、変形性肩関節症、スポーツ肩障害など

■ 手の外科: 外傷、変形性指関節症、絞やく性神経障害など

■ リウマチ性疾患: 関節リウマチ、強直性脊椎炎など

■ 小児整形外科: 发育性股関節形成不全、先天性内反足、筋性斜頸、ペルテス病、大腿骨頭すべり症など

■ 足の外科: 変形性足関節症、足部変形、外反母趾など

【主な検査】

X線、CT、MRI、血管造影、脊髄造影、神経伝導検査、核医学検査など

【主な治療】

■ 人工関節置換術(股関節・膝関節・肩関節・肘関節・手指)

■ 関節疾患(股関節、膝関節、手の外科、足の外科)に対する骨切り術(関節温存手術)

■ 悪性骨軟部腫瘍に対する患肢温存手術

■ 内視鏡(関節鏡)下手術(膝関節・肩関節・手関節・足関節に対する関節鏡下手術、脊椎内視鏡手術、骨髄鏡下手術など)

■ 脊柱側わん症に対する手術、脚延長や四肢変形矯正、関節リウマチに対する生物学的製剤や骨粗鬆症に対する薬物療法など

【学会施設認定】

日本整形外科学会、日本リウマチ学会、日本脊椎脊髄病学会、日本手外科学会、日本リハビリテーション医学会

脳神経外科

脳神経外科は脳・眼窩内腫瘍、脳血管障害、頭部外傷、脊椎・脊髄疾患、中枢神経奇形、機能的脳外科疾患など、脳神経外科疾患全般を対象に、手術を中心とした専門的な高度医療を行っています。



科長 吉本幸司



経鼻内視鏡による低侵襲脳腫瘍手術

【得意分野】

脳腫瘍(下垂体腫瘍、頭蓋底腫瘍、神経膠腫などの悪性脳腫瘍)や、血管性病変(脳動脈瘤や脳動静脈奇形、頸動脈狭窄症、もやもや病など)の手術難易度の高い病変に対し、豊富な手術経験に基づいて、良好な成績をあげています。術後化学・放射線療法に関しては個々の症例に対して検討し、最適な治療を行っています。血管奇形や高難度動脈瘤に対しては最新のデバイスを用いた血管内治療や直達手術を行っています。難治性てんかんなどの機能的疾患に対しても、最新の検査と手術装置を用いて、手術を行っています。

【診療体制】

日本脳神経外科学会認定専門医、日本脳卒中学会認定専門医、日本脳神経血管内治療学会専門医、がん治療認定医、日本てんかん学会認定臨床専門医が専門的な診療にあたっています。毎週月、水、金曜日が初診受診日で、その日のうちにそれぞれの専門医が対応します。脳卒中や頭部外傷などで緊急手術が必要な急患に対しては、救命救急センターとの連携のもと、24時間体制で対応しています。

【診療方針】

患者さんの立場に立って生活の質 Quality of Life (QOL) の改善と維持を目指し、より確実かつより侵襲の少ない治療法を開発・実践しています。

【対象疾患】

脳腫瘍(髄膜腫、聴神経腫瘍、頭蓋底腫瘍、下垂体腺腫、神経膠

腫、胚細胞腫、転移性脳腫瘍など)、眼窩内腫瘍、脳血管障害(脳動脈瘤、脳動静脈奇形、閉塞性脳血管障害、もやもや病、頸動脈狭窄性病変など)、脊椎・脊髄疾患(脊髄腫瘍、椎間板ヘルニア、後縦靱帯骨化症など)、中枢神経形成異常(水頭症、脊髄髄膜瘤、脊髄脂肪腫、キアリ奇形など)、機能的脳外科疾患(難治性てんかん、顔面けいれん、三叉神経痛、パーキンソン病など)

【主な検査】

神経放射線学的検査:CT、MRI、脳血管撮影、PET、SPECT
機能的検査:機能的MRI、長時間ビデオ脳波検査、各種誘発電位

【主な治療】

手術用顕微鏡、外視鏡ナビゲーション、神経内視鏡、電気生理学的モニターなどの最新術中支援システムを駆使した手術を行っています。最新の三次元コンピュータ画像作成システムを使った詳細な術前検討を行うことにより、難易度が高い症例に対しても、安全で確実な手術を行っています。最近では、経鼻的に内視鏡で頭蓋底腫瘍を摘出する低侵襲手術も数多く行っています。また専門スタッフにより最先端のデバイスを用いた脳血管内治療も行っています。難治性てんかんに対する手術経験も豊富です。

【学会施設認定】

日本脳神経外科学会、日本脳卒中学会、日本てんかん学会、日本脳神経血管内治療学会、日本脳神経外傷学会

心臓血管外科

弁形成や人工弁置換術、冠動脈バイパス術、先天性心臓病手術、胸部・腹部・腹部大動脈人工血管置換術、補助人工心臓装着、心臓移植。ステントグラフト手術、経カテーテル的大動脈弁置換術などの血管内治療。身体に優しい低侵襲小切開手術やロボット手術など高度の先進手術も多数の経験があり、ほぼ全ての手術に対応している九州随一の施設です。



科長 塩瀬 明



MICS (低侵襲心臓手術)の手術風景

【得意分野】

心臓、大血管疾患すべての分野において、最新かつ先進的な手術治療に取り組んでいます。弁膜症の手術は複合臓器障害を合併した重症例、複数回の再手術症例や広範囲感染性心内膜炎へのホモグラフト移植などの重症手術を多く行っています。先天性心疾患は、未熟児を含め新生児から成人期の再手術症例まで、幅広い年齢層で多くの手術を行っています。小児心臓施設が少ないため、九州一円から患者さんの紹介を受けています。大動脈疾患は従来の人工血管置換術はもちろん、侵襲の少ないステントグラフト手術も積極的に行っています。重症心不全に対しては九州唯一の心臓移植施設として、補助人工心臓装着から心臓移植まで行っています。現在は補助人工心臓を装着した患者さんが心臓移植までの間、自宅待機が可能です。2017年にECMOセンター設立、ECMO(体外式膜型人工肺)チーム医療が開始、2018年に小児補助人工心臓(EXCOR Pediatric)が開始され、成人、小児ともに重症心肺不全の治療に力を入れています。低侵襲手術(小切開やロボット手術等)や経カテーテル的大動脈弁置換術も積極的に取り入れています。

【診療体制】

スタッフは心臓血管外科専門医認定機構認定専門医11名を含め18名で、年間約700例の手術(うち心臓・大血管手術約500例)を行っています。急患用ホットラインを備え、24時間対応で手術依頼の受け入れを行っています(①080-3213-2833 ②病棟092-642-5563、5564から内線2295)。

【診療方針】

患者第一をモットーに、心臓病に苦しむ方とご家族の期待に応えるため、信頼のできる医療を提供します。手術後の患者の生活の質(QOL)を向上させるために、もっとも良い手術法、治療法を選択するようチーム一同心がけています。また、これまで手術の恩恵を得ることができなかった方々の治療も可能となるよう、最新の治療技術開発にも取り組んでいます。

【対象疾患】

弁膜症疾患、感染性心内膜炎、冠動脈疾患、先天性心疾患(小児、成人)、解離性・非解離性大動脈瘤、重症心不全、不整脈、心膜疾患、心臓腫瘍など心臓、大血管全般

【主な治療】

人工弁置換術、小切開低侵襲心臓手術、ロボット心臓手術、経カテーテル的大動脈弁置換術、自己弁温存弁手術、冠動脈バイパス術(心停止下、心拍動下)、補助人工心臓装着(成人、小児)、心臓移植(成人、小児)、胸部大動脈人工血管置換術、胸腹部大動脈人工血管置換術、ステントグラフト内挿術、先天性心疾患姑息術・根治術、成人先天性手術(再手術例を含む)、永久ペースメーカー植込み術(リードレスペースメーカー可)、両心室ペースメーカー植込み術、植込み型除細動器植込み術、Maze手術

【学会施設認定】

日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本血管外科学会、心臓血管外科専門医認定機構認定修練施設、心臓移植認定施設(成人、小児)、植込み型補助人工心臓実施施設(成人、小児)、ステントグラフト実施施設、経カテーテル的大動脈弁置換術専門施設、インペラ補助循環用ポンプカテーテル実施施設、ロボット心臓手術実施施設

小児外科、成育外科、小腸移植外科

われわれは「こどもを安心してまかせられる外科医」をモットーとし、小児の手術を必要とする病気を広く取り扱っています。対象年齢は胎児(出生前診断例)から16歳までが主ですが、小児外科特有の病気は成人になっても成育外科として診療を継続します。



科長 田尻達郎



小児固形腫瘍に対する腫瘍摘出術

【得意分野】

新生児外科、小児肝臓・小腸移植、小児消化器、小児呼吸器、小児固形腫瘍、小児泌尿器、小児鼠径部疾患(鼠径ヘルニア、陰のう水腫)、小児外傷

【診療体制】

小児外科、成育外科、小腸移植外科では疾患別に診療にあたっています

新生児・呼吸器・代謝栄養グループ 消化管グループ
肝胆道・移植グループ 腫瘍グループ
泌尿器グループ 漢方グループ
日常疾患グループ

【診療方針】

■専門医による診療

外科治療が必要な小児の治療に対して、十分に訓練を受けた小児外科専門医が担当します。

■出生前から始まる診療

出生前診断された胎児の診療のために、総合周産期母子医療センターがあります。ここでは産科・新生児内科・新生児外科の医師が協力して出生前診断された胎児・新生児の診療にあたります。

■Quality of Life を考慮した診療や傷の残らない手術

病気が治った後はできるかぎり普通の生活に戻れるように考慮した治療を選択するよう心がけています。

【対象疾患】

- 頭部・顔面: 副耳、耳前瘻、舌小帯短縮症
- 頸部: 正中頸のう胞、側頸瘻、梨状窩瘻、リンパ管腫、血管腫
- 胸壁: 漏斗胸
- 呼吸器: のう胞性肺炎、先天性気管狭窄症、気管軟化症、異物誤嚥、ECMO、気胸
- 食道: 異物の誤嚥、胃食道逆流症、先天性食道閉鎖症、食道狭窄症

■横隔膜: 横隔膜ヘルニア、食道裂孔ヘルニア

■肝臓・胆道: 胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症、胆石症、門脈圧亢進症、脾腫

■消化管: 異物の誤嚥・誤飲、胃潰瘍、肥厚性幽門狭窄症、胃軸捻転、消化管穿孔、腸閉鎖症、腸回転異常症、腸重積症、メッケル憩室、腸管重複症、腸閉塞、ヒルシュスプルング病および類縁疾患、短腸症、直腸肛門奇形、肛門周囲膿瘍・乳児痔瘻、裂肛、便秘、急性虫垂炎、腸炎、壊死性腸炎、胎便性腹膜炎、腸管ポリープ

■脾臓: 脾炎、脾のう胞

■腹壁・臍: 臍ヘルニア、臍帯ヘルニア、腹壁破裂、臍腸瘻、尿膜管遺残、臍炎・臍肉芽腫

■鼠径部・精巣: 鼠径ヘルニア、陰のう・精索水腫・ヌック管水腫、停留精巣、精巣捻転症

■泌尿生殖器: 水腎・尿管管症、膀胱尿管逆流症、先天性腎疾患、腎のう胞、包茎、先天性腎尿路異常(CAKUT)

■腫瘍: 神経芽腫、腎腫瘍、肝腫瘍、胚細胞腫瘍(奇形腫)、横紋筋肉腫、肺腫瘍、脾腫瘍、その他の良性/悪性固形腫瘍

■外傷: 肺損傷、外傷性消化管穿孔、肝損傷、脾損傷、腎損傷

【主な検査】

栄養評価・成長評価、消化管造影検査、内視鏡検査、超音波検査、消化管内圧検査、食道pHインピーダンス検査、直腸粘膜生検、肝生検

【主な治療】

臓器移植(肝移植・小腸移植)、腫瘍の集学的治療、腸管延長術、新生児外科治療、低侵襲外科手術(内視鏡外科手術)、漢方治療(小児漢方外来)

【学会施設認定】

日本小児外科学会認定施設、脳死肝および小腸移植認定施設
小児がん拠点病院(2013年一)、総合周産期母子医療センター、
日本東洋医学会 指定研修施設・教育病院

【国際医療連携】

NPO 法人と連携した医療技術提供と情報収集

皮膚科

アトピー性皮膚炎、じんましん、薬疹、乾癬、水疱症、皮膚感染症など難治性皮膚疾患を、専門的に治療します。皮膚腫瘍、熱傷の手術、赤あざのレーザー治療、真菌症などの専門外来も充実しています。



科長 中原剛士



ダーモスコピーによる病変の観察

【得意分野】

アトピー性皮膚炎、じんましん、皮膚真菌症、悪性腫瘍の治療では、学会や厚生労働省のガイドライン作成に関与しています。難治性皮膚潰瘍、熱傷の豊富な治療経験をもっています。紫外線治療機器、レーザー治療機器も充実しています。

【診療体制】

初診は月・水・金曜日の午前、再診は火・木曜日の午前で、いずれも完全予約制です。初診でカルテを作成後、下記の各種専門外来(各曜日午後)を受診していただくことがあります。

- ①レーザー外来(月) ④油症外来(水) ⑦真菌外来(木)
- ②アトピー外来(月・水) ⑤腫瘍外来(水・金) ⑧形成外来(木)
- ③褥瘡外来(院内患者のみ)(火) ⑥皮膚外科外来(水・金)

【診療方針】

患者さんのために最も適した治療を、十分な説明を行った上で適切に行うことを心がけています。それぞれの患者さんには担当主治医を中心に診療にあたりますが、必要に応じて皮膚科全体カンファレンスで治療方針を決定します。初診・再診は完全予約制です。ご協力ください。またレーザー外来では疾患により自費診療となります。

【対象疾患】

- アトピー性皮膚炎、じんましん、難治性湿疹、乾癬、薬疹、悪性黒色腫などの悪性皮膚腫瘍、良性皮膚腫瘍、褥瘡、熱傷、難

治性潰瘍、外傷、ウイルス感染症、細菌感染症、真菌感染症、膠原病、水疱症、白斑、円形脱毛症、油症

■レーザー治療(単純性血管腫)

【主な検査】

■ダーモスコピー検査

■超音波検査

■皮膚生検(病理検査)

■真菌検査(直接鏡検、真菌培養)

■サーモグラフィ

■パッチテスト

■光線過敏検査

【主な治療】

■外用療法、内服療法、レーザー治療(色素レーザー)、光線(紫外線)療法(PUVA療法、ナローバンドUVB療法、エキシマライト)、液体窒素冷凍療法など

■皮膚悪性・良性腫瘍に対する手術と、局所皮弁、植皮による再建

■悪性黒色腫に対するセンチネルリンパ節生検、免疫チェックポイント阻害薬・分子標的薬による治療

■難治性の乾癬、アトピー性皮膚炎、じんましんに対する分子標的薬による治療

■難治性の天疱瘡に対する大量免疫グロブリン療法

■難治性皮膚潰瘍に対する陰圧閉鎖療法

【学会施設認定】

■日本皮膚科学会認定皮膚科専門医主研修施設

■日本アレルギー学会認定教育施設

泌尿器・前立腺・腎臓・副腎外科

当科は、腎臓や腎盂・尿管・膀胱・尿道といった尿路系全般と前立腺・精巣・陰茎などの男性生殖器に加え、ホルモン産生臓器である副腎の外科的疾患を主な対象として、幅広く最先端の医療を行っています。



手術支援ロボット「ダヴィンチ」での手術風景

【得意分野】

外科的治療として副腎腫瘍、腎癌などに対して腹腔鏡手術を積極的に行っています。限局性前立腺癌や小径腎癌に対するロボット支援手術などさまざまな最先端の低侵襲治療を行っています。また、尿路結石にはレーザーを用いた内視鏡の治療を行っています。一方で、進行腎癌に対する免疫療法や分子標的治療、尿路上皮癌に対する全身化学療法、前立腺癌に対する内分泌療法、排尿障害に対する薬物療法など内科的治療も幅広く行っています。

【診療体制】

日本泌尿器科学会専門医13名(そのうち指導医8名)、泌尿器腹腔鏡技術認定医6名が在籍しています。泌尿器科領域の悪性腫瘍の診断治療を診療の柱として、病気の進行段階に応じた適切な治療を行っています。さらに、前立腺肥大症などに伴う排尿障害、尿路感染症など専門的な診断治療を行っています。

【診療方針】

患者さんに十分説明し、最も適した治療法を選択するインフォームドコンセントを診療の基本にして、生活の質(QOL)を十分に考慮した、より低侵襲で最先端の医療を提供することに努めています。個々の患者さんに優しい医療の実践のため、放射線科をはじめとする関連治療科の専門家とディスカッションしながらチームとして診療に取り組んでいます。

【対象疾患】

腎・尿路性器癌(前立腺癌、膀胱癌、腎癌、腎盂尿管癌、精巣癌など)、尿路結石症、前立腺肥大症、尿路感染症、神経因性膀胱、女性泌尿器科(尿失禁、性器脱など)、頻尿(過活動膀胱、間質性膀胱炎など)、小児泌尿器疾患、副腎腫瘍(原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫など)

【主な検査】

腹部エコー、軟性膀胱鏡検査、硬性または軟性尿管鏡検査、経直腸前立腺エコー、ウロダイナミクス検査、尿流量測定、残尿測定、膀胱内圧測定、内圧尿流検査(Pressure flow study)、膀胱造影、逆行性腎盂尿管造影、尿道造影、前立腺生検、CT、MRIなど

【主な治療】

- 膀胱癌に対するロボット支援膀胱全摘除術
- 前立腺癌に対するロボット支援根治的前立腺摘除術
- 腎癌に対するロボット支援腎部分切除術
- 前立腺癌に対する放射線治療時のスペーサー留置、薬物療法
- 副腎、腎、尿管、膀胱、前立腺疾患に対する腹腔鏡手術、開腹手術、薬物療法
- 膀胱癌に対する内視鏡手術、薬物療法
- 尿路結石に対する経尿道的内視鏡手術

【学会施設認定】

日本泌尿器科学会専門医教育施設

精神科神経科

精神科神経科は脳の機能不全や心理社会的な要因によって生じるこころの病気を診療対象として、医師、看護師、臨床心理士、精神保健福祉士、作業療法士など多職種のスタッフが、患者さん一人ひとりの全人的理解に基づき、包括的な精神医療活動を続けています。



科長 中尾智博

【得意分野】

うつ病、双極性障害、強迫性障害、統合失調症、発達障害などの精神疾患の診断、治療のエキスパートや、老年精神医学、リエゾン精神医学など幅広い専門領域をもつスタッフが、高度かつ利用者に優しい医療を提供します。高度医療機関である利点を活かし、他科と連携して患者さんの身体疾患(合併症)とこころの問題の双方に対して高い水準の治療を行います。

【診療体制】

初診日は火曜日と木曜日の午前中です。はじめての受診の場合は、かかりつけ主治医から予約センターにFAXで予約をお願いします。一般外来・行動療法外来・気分障害ひきこもり外来・もの忘れ外来(脳神経内科と合同)・子どものこころの診療部(小児医療センター、総合周産期母子医療センターと合同)

【診療方針】

心理社会的治療から生物学的治療まで幅広い治療法を、病状に応じてバランスよく組み合わせた、外来・入院治療を提供します。患者さんと家族のウェルビーイングのために、十分なインフォームドコンセントに基づき安全な治療環境を保障します。

【対象疾患】

- 一般成人精神医学(強迫性障害や社会不安障害などの神経症性障害、うつ病、双極性障害、統合失調症)
- リエゾン精神医学(身体疾患の治療中に生じる不安・抑うつやせん妄など)
- 老年精神医学(認知症、うつ病、せん妄)

【主な検査】

脳波、脳MRI、脳CT、脳血流シンチ(SPECT)、PET、高次脳機能検査、神経心理検査

【主な治療】

- 行動療法外来:学習心理学を応用した精神療法で強迫性障害、パニック障害、社交不安障害などに有効です。
- 気分障害ひきこもり外来:抑うつ症状を呈する多様な気分障害やひきこもりの先進的な診断評価を行い、総合的な治療を行います。
- 認知療法:主にうつ病の方を対象に、薬物療法とともに認知の修正を行うことで、再発や悪化を防ぎます。
- 電気けいれん療法:全身麻酔下呼吸循環管理の下で、頭部に通電を行う療法です。難治性のうつ病などに、きわめて安全かつ効果の高い方法です。
- 反復経頭蓋磁気刺激療法(rTMS):パルス磁場による誘導電流で前頭葉を低侵襲的に刺激し、脳を活性化させてうつ病の症状を改善する治療法です。入院で、週5回、6週間程度の実施が必要になります。
- 精神科リエゾンサービス:一般病棟に入院中の患者さんや、本院で臓器移植や遺伝子診断などの先進医療を受ける方のこころの問題への総合窓口として随時対応します。
- 精神科デイケア:患者さんが地域での生活にスムーズに戻れるように、さまざまなリハビリテーション活動や相談を行います。統合失調症やうつ病、発達障害を対象としたグループ活動(もしくは心理社会的療法)を行っています。

【学会施設認定】

日本精神神経学会専門医研修施設、日本老年精神医学会専門研修施設、日本認知症学会専門研修施設、日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医研修施設

眼科

眼科は、九州地方のみならず全国各地から患者さんの紹介を受けており、難治性の疾患や希少な疾患にも対応できるよう、専門性が高く経験豊富なスタッフを擁しています。患者さんが安心して良質かつ高度な医療を受けられるよう、各専門領域の医師が緊密に連携を取りながら診療を行っています。



科長 園田康平



硝子体手術支援ロボットOQrimoを用いた手術の様子

【得意分野】

ぶどう膜炎、網膜硝子体疾患(糖尿病網膜症、加齢黄斑変性など)、網膜色素変性、緑内障、眼部腫瘍、眼瞼・涙道疾患、未熟児網膜症、角膜疾患など、眼疾患全般の診療を行っています。特にぶどう膜炎、網膜硝子体疾患、眼部腫瘍においては、最先端の診断技術と共に、精密で安全な治療法を提供し、良好な治療成績を得ています。また、硝子体手術支援ロボットを用いた手術など新しい技術にも取り組んでいます。

【診療体制】

日本眼科学会認定眼科専門医が中心となって診療にあたっています。診断や治療が難しい疾患に関しては、カンファレンスで複数の医師が討議しながら、診療の方針を決定しています。また地域医療機関とも密接に連携を取っています。緊急を要する疾患に対しては、速やかに入院治療を行える体制を整えています。

【診療方針】

患者さんに対しては、わかりやすい言葉で丁寧に説明するよう心がけています。最新の検査機器を用いて病状を正確に捉え、個々の患者さんに最適な治療法を選択します。

【対象疾患】

ぶどう膜炎、網膜硝子体疾患(糖尿病網膜症、加齢黄斑変性、網膜剥離、網膜静脈閉塞症、黄斑円孔、黄斑上膜、増殖硝子体網膜

症など)、網膜色素変性、緑内障、眼部腫瘍、眼瞼・涙道疾患、小児眼疾患(未熟児網膜症、斜視など)、角膜疾患、白内障

【主な検査】

視力検査、眼圧検査、動的・静的視野検査、マイクロペリメータ、光干渉断層計(OCT)検査、レーザー赤外眼底造影検査、網膜電図、角膜形状解析検査、超音波生体顕微鏡検査、広角光干渉断層計

【主な治療】

- ぶどう膜炎:コルヒチン、シクロスポリン、低容量ステロイド、インフリキシマブ治療、アタリブマブ治療、硝子体手術など
- 網膜剥離・糖尿病網膜症: 小切開硝子体手術、heads up surgery、抗VEGF薬硝子体注射、レーザー網膜光凝固など
- 加齢黄斑変性: 抗VEGF薬硝子体注射、光線力学的療法(PDT)など
- 緑内障: 線維柱帯切開術、線維柱帯切除術、チューブシャント手術、プリザーフロ、ハイドラスなど
- 眼部腫瘍: 眼内腫瘍の眼球温存療法、局所抗がん剤治療、サイバーナイフ治療など
- 眼瞼・涙道疾患: 眼形成手術、涙のう鼻腔吻合術(DCR 鼻外・鼻内法)、甲状腺眼症に対する手術など

【学会施設認定】

日本眼科学会専門医制度研修施設

耳鼻咽喉・頭頸部外科

当科では耳、鼻、口、のど、顔面、頸部の病気を取り扱いいます。この領域には、聴覚、嗅覚、味覚、平衡覚といった日常生活を営む上で重要な「感覚」や、摂食、嚥下という「生命の維持に重要な機能」や、発声、構音という「コミュニケーションに重要な機能」があります。耳鼻咽喉・頭頸部外科医はこれらの感覚や機能の障害を治療し、患者さんのQOL(生活の質)の向上を目指しています。



科長 中川尚志



手術

【得意分野】

高度感音難聴に対する人工内耳埋めこみ術は日本でもトップクラスの症例数です。また、脳神経外科と合同で行う経鼻内視鏡頭蓋底手術も得意としています。頭頸部癌治療も充実しており、ダビンチ治療や内視鏡による癌の切除で機能温存を目指す他、光免疫療法など最先端の治療も行っています。また、希少癌である外耳道癌は、他大学から当院に紹介されることも多く、たくさんの症例を治療してきています。

【診療体制】

日本耳鼻咽喉科学会認定専門医を中心に診療を行っています。専門外来として耳・めまい外来(月曜)、鼻外来(水曜)、腫瘍外来、音声外来、嚥下外来、気道外来(金曜)を設け、それぞれ専門医が診療にあたっています。

【診療方針】

患者さんのニーズに応じた丁寧な診療を心がけています。単に疾患を治すだけでなく、耳鼻咽喉科領域に特有なQOLを重視した治療を基本方針としています。

【対象疾患】

耳科疾患(慢性化膿性中耳炎/真珠腫性中耳炎/高度感音難聴)、鼻科疾患(慢性副鼻腔炎/アレルギー性鼻炎)、咽頭・喉頭疾患(音声障害/嚥下障害)、頭頸部腫瘍(口腔癌・咽頭癌・喉頭癌・副鼻腔

癌・外耳癌・唾液腺癌・甲状腺癌)など

【主な検査】

- 純音聴力検査、語音聴力検査、SISI検査、自記オーディオ検査、ティンパノグラム、アブミ骨反射検査、聴性脳幹反応検査(ABR)、耳鳴検査、耳音響放射
- 注視眼振検査、頭位・頭位変換眼振検査、重心動揺検査、カロリック検査、前庭頸反射検査など
- T & T 嗅覚検査、鼻腔通気度検査、アレルギー誘発検査など
- 喉頭ファイバー検査、頸部超音波検査、ストロボスコーピー検査、ビデオ嚥下透視検査など

【主な治療】

- 耳科領域: 鼓室形成術、人工内耳植込み、聴神経腫瘍摘出など
- 鼻科領域: 内視鏡下鼻副鼻腔手術など
- 喉頭・音声領域: 喉頭マイクロ手術・甲状軟骨形成術など
- 頭頸部腫瘍: 口腔、咽頭、喉頭、鼻副鼻腔、耳下腺、甲状腺腫瘍に対する手術、放射線化学療法、再建手術、頭蓋底手術など
- 嚥下障害に対する改善手術: 輪状咽頭筋切断術、喉頭挙上術など
- 頭蓋底領域: 経鼻内視鏡頭蓋底手術など

【学会施設認定】

日本耳鼻咽喉科学会、日本頭頸部外科学会、日本がん治療認定医機構、日本鼻科学会認定鼻科手術認可施設

リハビリテーション科

リハビリテーション科では、すべての診療科と協力して、疾病による障害や運動機能が低下した患者さんに対して、病状に応じたりハビリ診療を提供し、医療スタッフが一体となって機能回復や社会復帰をサポートしています。また、新しい医療技術の研究開発や、学生や社会人に対する教育や、運動器疾患予防の社会啓発活動にも取り組んでいます。



リハビリ室の診療風景

【得意分野】

関節疾患や脊椎疾患、骨軟部腫瘍などの運動器疾患の術前・術後のリハビリや心臓リハビリを中心に、呼吸理学療法、脳血管疾患、小児疾患、終末期のリハビリから言語聴覚療法など、幅広い領域のリハビリ診療を行っています。

【診療体制】

スタッフは、医師3名(リハビリ専門医1名)、理学療法士23名、作業療法士6名、言語聴覚士2名で、それぞれ職能を活かし良質で安全なリハビリを実践しています。施設基準は、脳血管疾患Ⅰ、運動器Ⅰ、呼吸器Ⅰ、心大血管疾患Ⅰ、がんの5種を取得し、総合的なリハビリ医療環境を整えています。

【診療方針】

各診療科の主治医の治療オーダーを基に、リハビリ専門医と各専門職とでチームを組み、患者さんご家族に寄り添ったリハビリ診療を提供します。また、さまざまな社会背景をもつ個々の患者さんがスムーズに家庭や社会に復帰できるよう、医療連携の充実にも努めています。

【対象疾患】

運動器疾患の術前・術後リハビリが約30%を占めますが、脳血管疾患、心大血管や呼吸器疾患、さらに臓器移植術や多発外傷後のICUでの急性期リハビリ、長期臥床・安静後の廃用症候群など、小児から高齢者まで幅広い領域の疾患に対して診療を行っています。

【主な検査】

- 三次元動作解析装置(VICON)
- 簡易上肢機能検査(STEFF)
- 高次脳機能障害の各種検査
- シート式下肢加重計(ワークWay)
- 体成分分析装置(InBody)
- 重心動揺計(バランスコーダ)

【主な治療】

徒手で治療を行います。一部機器も使用します。

- 上下肢全身運動器(ニューステップ)
- 膝関節等速性筋力トレーニング(COMBIT)
- 電気刺激装置

放射線科

放射線科では画像に基づく全身の疾患の診断・治療を行っています。CT、MRI、PET、内視鏡などの最新医療機器で診断し、適応に従い、放射線治療、化学放射線療法、画像下治療(IVR)、内視鏡的治療などの各種治療を行っています。



科長 石神康生



高精細CT

【得意分野】

最新診断機器(CT、MRI、PET、内視鏡、IVR-CT)を駆使した画像診断、放射線治療(定位照射、IMRT、密封小線源治療を含む)、核医学治療(甲状腺癌、甲状腺機能亢進症、神経内分泌腫瘍、パラガングリオーマ、前立腺癌)、画像下治療(IVR)(血管塞栓術・凍結療法・ラジオ波焼灼術・緩和IVR)、内視鏡治療(ポリープ切除術、粘膜下層剥離術、光線力学療法)。

【診療体制】

日本医学放射線学会専門医(診断もしくは治療、計31名)、日本がん治療認定医機構認定医(3名)、日本核医学会専門医(3名)、PET核医学認定医(6名)、日本IVR学会専門医(7名)、検診マンモグラフィ読影認定医(11名)、日本消化器内視鏡学会内視鏡専門医(3名)が、外来・入院で画像検査、画像下治療、放射線治療、化学放射線療法、内視鏡的切除など幅広い専門的診療を行っています。

【診療方針】

放射線科が目指す診療は、患者さんにやさしい診療です。診断分野では、より侵襲が少なく効率的な画像診断法を選択して行います。治療分野では、切らずに治す放射線治療や核医学治療、画像下治療(IVR)、内視鏡治療などを提供します。

【対象疾患】

舌癌、口腔底癌、上顎癌、上咽頭癌、中咽頭癌、下咽頭癌、喉頭癌、甲状腺癌、食道癌(再発含む)、胃癌、大腸癌、大腸ポリープ、

肺癌、乳癌、肝臓癌、腎癌、前立腺癌、子宮癌、転移性脳腫瘍、転移性骨腫瘍、悪性リンパ腫、脊椎圧迫骨折、動脈狭窄症など。

【主な検査】

単純写真、マンモグラフィ、胸部X線動態撮影、CT、MRI、超音波検査、核医学検査(シンチグラフィ、SPECT-CT、PET-CTなど)、血管造影検査、消化管検査(内視鏡、バリウム造影、大腸CT)、CTガイド下生検

【主な治療】

- 放射線治療：体外照射(定位照射、IMRTを含む)、密封小線源治療(子宮など)
- 核医学治療：ヨード治療、ルテチウムオキシドトレオチド治療、ゾーフィゴ治療、MIBG治療、プルヴィクト治療
- 画像下治療(IVR)：腎癌凍結療法、血管塞栓術(腫瘍、出血、血管性病変)、肝癌動脈化学塞栓療法、ラジオ波焼灼術、CTガイド下ドレナージ、中心静脈ポート留置、頭頸部腫瘍動注化学療法、血管形成術、経皮経食道胃管挿入術
- 内視鏡治療：内視鏡的粘膜下層剥離術(食道癌、胃癌、大腸癌)、内視鏡的ポリープ切除術(大腸ポリープ)、光線力学療法(再発食道癌)
- 化学放射線療法(頭頸部癌、食道癌、婦人科癌など)

【学会施設認定】

日本医学放射線学会、日本放射線腫瘍学会、日本がん治療認定医機構、日本核医学会、日本IVR学会、日本消化器内視鏡学会

麻酔科蘇生科

麻酔科医は、手術を受ける患者さんのそばにいて、最適な麻酔と全身管理を行いながら命を守り続けます。また、痛みでお悩みの患者さんに、専門的立場から外来と入院治療を行っています。



科長 山浦 健



全身麻酔のセットアップ

【得意分野】

麻酔科蘇生科の主な診療内容は、手術時の麻酔と痛みの治療（ペインクリニック・緩和ケア）です。手術を受ける患者さんには麻酔と同時に呼吸・循環などの全身管理が必要です。麻酔科医は重症患者の多い集中治療部や救命救急センターでも活躍しています。ペインクリニック・緩和ケアでは、難治性疼痛の治療に力を入れ、他科とも連携して診療にあたっています。

【診療体制】

現在、麻酔科医39名（麻酔科専門医23名）が在籍し、本院で行われる年間約11,000例の手術のうち、約8,200症例を麻酔科蘇生科が担当しています（2024年度医科実績）。また、ペインクリニックや緩和ケアにも力を入れ、整形外科・脳神経外科・神経内科・心療内科などとも連携をとりながら、集学的診療にあたっています。

【診療方針】

麻酔科蘇生科では、手術前・中・後の患者さんの生命維持と安全の確保に取り組んでいます。ペインクリニック・緩和ケアでは、個々の患者さんに各々の治療法について十分に説明し、理解していただいた上で治療を行います。

【対象疾患】

当科が麻酔を担当する対象疾患は手術治療を必要とする全疾患に及びます。小手術の場合は担当科で局所麻酔をして手術することも

あります。ペインクリニック・緩和ケアでは、帯状疱疹後神経痛、三叉神経痛、その他の顔面痛、頭痛、腰痛、肩の痛み、術後の痛み、がんの痛み、閉塞性動脈硬化症（ASO）、複合性局所疼痛症候群（CRPS）などのあらゆる痛みや、顔面神経麻痺を対象にしています。

【主な検査】

手術中、麻酔科医は学会の勧告するモニター指針に従って、絶え間なく患者さんのバイタルサインを看視します。さらに、必要に応じて血液検査、脳波や心エコーなど特殊な検査も加えます。ペインクリニックではサーモグラフィ、電流知覚閾値などの専門的な検査も行っています。

【主な治療】

- 本院で行われる手術の高度な麻酔管理を行います。
- ペインクリニックでは薬物療法、イオントフォレーシス、低周波電気治療、レーザー照射、近赤外線照射、神経ブロック、脊髄刺激療法、高周波熱凝固治療、東洋医学的アプローチなどを用いて、痛みの治療を行っています。

【学会施設認定】

麻酔科認定病院（日本麻酔科学会）、ペインクリニック専門医指定研修施設（日本ペインクリニック学会）、集中治療専門医研修施設（日本集中治療医学会）、緩和医療認定研修施設（日本緩和医療学会）、心臓血管麻酔専門医認定施設（日本心臓血管麻酔学会）

総合診療科

総合診療科はさまざまな病気に対応し、原因不明の発熱疾患、診断の難しい疾患、生活習慣病（糖尿病、高血圧、脂質異常症、骨粗しょう症など）、感染症（細菌・ウイルス・真菌感染症、ウイルス性肝炎、HIV感染症/AIDS、輸入感染症など）、漢方外来、渡航外来を行っています。



カンファレンス

【得意分野】

疾患を特定できない症状を有する患者さんや、受診する診療科の判断に迷う患者さんの診断・治療を行います。

【診療体制】

総合内科専門医10名、総合診療専門医7名、日本病院総合診療医学会専門医3名・認定医6名、プライマリケア認定医2名、家庭医専門医2名、日本感染症学会専門医5名、インфекションコントロールドクター3名、日本肝臓学会専門医4名、日本消化器病学会専門医1名、日本東洋医学会漢方専門医1名を含む17名の医師が診療を行います。初診外来は月曜日から金曜日まで、毎日行います。専門外来は、HIV感染症外来、漢方外来、渡航外来（16歳以上）です。

【診療方針】

日常よくある内科疾患や、何科を受診してよいか分からない患者さんを診察・診断し、必要な場合は適切な専門診療科に紹介します。高齢者など病気を重複してもつ患者さんについては各専門科と相談しながら主治医として診療を行います。

【対象疾患】

一般内科全般、不明熱・リンパ節腫脹など未診断の症候の診療、感染症（ウイルス性肝炎、HIV感染症/AIDSを含む）、生活習慣病（糖尿病、高血圧、脂質異常症、骨粗しょう症など）、漢方治療と

なる疾患全般、渡航外来（海外旅行、海外出張予定のある方への予防接種、英文診断書作成など）

【主な検査】

腹部超音波検査、ファイブスキャンおよびCombinational Elastography を用いた非侵襲的肝線維化・肝脂肪化評価、肝生検、動脈硬化症検査（頸動脈エコー、脈波速度、CAVI）、糖代謝検査

【主な治療】

- 生活習慣病：糖尿病、高血圧、脂質異常症、骨粗しょう症に対する薬物療法
- 肝炎ウイルス感染症：
 - ・C型肝炎治療：直接作用型抗ウイルス剤を中心とした治療
 - ・B型肝炎治療：核酸アナログ製剤による治療
- HIV感染症：抗レトロウイルス療法（ART）
- 漢方診療：煎薬、医療用漢方エキス製剤による治療

【学会施設認定】

日本内科学会、日本病院総合診療医学会、日本感染症学会、日本肝臓学会、日本東洋医学会、総合診療専門研修プログラム 研修基幹施設

形成外科

形成外科とは、身体に生じた組織の異常や変形、欠損、あるいは整容的な不満足に対して、あらゆる手法や特殊な技術を駆使し、機能のみならず形態的に正常に、より美しくすることによって、患者さんの生活の質 "Quality of Life (QOL)" の向上に貢献する、外科系の専門領域です。腫瘍切除後の再建、顔面骨折などの外傷、先天異常、瘢痕拘縮、ケロイド、顔面神経麻痺、難治性潰瘍、リンパ浮腫の治療など、幅広い領域の治療を行っています。



科長 門田英輝

【得意分野】

■自家遊離組織移植

悪性腫瘍切除後に生じた組織の欠損に対して他科との協力のもと、自家遊離組織移植(皮膚軟部組織や腸管、骨の移植)を用いて再建を行い、術後の機能、形態の喪失を抑え、QOLの向上に貢献します。

■リンパ浮腫

婦人科疾患治療後の晩期合併症である下肢リンパ浮腫や腋窩部郭清後の上肢リンパ浮腫に対して、リンパ管静脈吻合し、治療を行います。

■顔面骨骨折(眼窩骨・上顎骨・頬骨)に対する整復術を行います。変形治療には骨切り術を行い機能、整容の改善を目指します。

【診療体制】

■日本形成外科専門医 4名

初診・再診ともに月・水・金曜日の午前で、完全予約制です。顔面骨開放骨折や重症軟部組織損傷など緊急の疾患は救命救急センター・麻酔科と協力し迅速に対応します。

【診療方針】

1. とくに外科治療を受ける患者さんの術後のQOLをできるだけ維持するための医療を提供する。
2. 患者さん一人ひとりに応じた安全で効果的な治療を提供する。
3. 全国的・国際的な評価にも耐えうる高度、先進的な医療を提供する。
4. 地域の形成外科医療に貢献する。

※九州大学病院形成外科では基本的に自費診療での治療・美容形成手術は行っていない。

【対象疾患】

悪性腫瘍切除後の再建(頭頸部・四肢・体幹・乳房)、外傷(顔面骨折・切断指・重症軟部組織損傷・熱傷・瘢痕(外傷、手術創治療後)・ケロイド、先天性疾患(小耳症・小顎症・頭蓋骨顔面骨形成異常・唇裂・口蓋裂・多指症)、さまざまな治療、疾患に伴うもの(四肢のリンパ浮腫・難治性潰瘍・放射性骨髄炎)、良性腫瘍、血管腫、リンパ管腫、眼瞼下垂症、顔面神経麻痺、斜鼻・鞍鼻・鼻中隔湾曲症など

【主な検査】

超音波・内視鏡・透視・CT・MRI・シンチグラフィ・ICG検査(リンパの流れの検査)・病理検査

【主な治療】

- 遊離皮弁による再建術(頭頸部・四肢・体幹・乳房)
- 外傷(顔面骨折整復術・顔面骨骨切り術・切断指再接着・植皮術・瘢痕拘縮形成術・外鼻形成術)
- 先天性疾患(ティッシュエキスパンダー、肋軟骨移植による小耳症手術・頭蓋骨顔面骨形成術・唇裂口蓋裂手術)
- さまざまな治療、疾患に伴うもの(リンパ浮腫に対するリンパ管静脈吻合術・持続陰圧治療・血管柄付き遊離骨移植術)
- 眼瞼下垂症手術、顔面神経麻痺に対する動的・静的再建

【学会施設認定】

日本形成外科学会基幹施設

先端分子・細胞治療科

先端分子・細胞治療科は、癌(大腸癌、肺癌、胃癌、胆道癌など)の免疫療法の開発に取り組んでおり、免疫療法を実際の診療に応用することを目指しています。当科では、患者さんに細胞療法を行う際の投与細胞を調製する分子・細胞調製センター(Molecular and Cell Processing Center: MCPC)を支援することにより、本院における細胞療法や遺伝子治療の臨床応用を支えています。



科長 水野晋一

【得意分野】

■悪性腫瘍に対する免疫・細胞療法、遺伝子治療

【診療体制】

診療医は日本内科学会総合内科専門医・認定医、日本血液学会専門医、日本造血・免疫細胞療法学会認定医、日本輸血細胞治療学会認定医、日本再生医療学会認定医であり、細胞療法の施行のため分子・細胞調製センターを支援しています。

【診療方針】

患者さんにとって最善の治療を提供するため、各疾患の専門家やARO次世代医療センターとの連携のうえ、新規の免疫細胞療法や遺伝子治療など最先端の治療法を速やかに臨床応用できるよう、基礎および臨床試験を実施しています。

【対象疾患】

- 臨床試験: 難治性の血液疾患や固形腫瘍
- 診療支援: 保険診療における細胞療法(分子・細胞調製センター)

【主な検査】

- 臨床研究: 遺伝子発現検査、悪性腫瘍遺伝子検査、腫瘍免疫検査
- 細胞製剤: 再生医療新法に基づいた品質管理

【主な治療】

分子・細胞調製センターは、GMP (good manufacturing practice) に準拠した施設として2008年に九州大学病院に設置され、施設設備として細胞調製ユニット(2室)、ベクター調製ユニット(1室)、アイソレーターユニット(1室)を中心とする4つの製造ユニットとP3対応のウイルス製剤の製造加工ユニットを併せもっています。本施設は2014年に施行された再生医療等の安全性の確保等に関する法律施行規則で定めた基準を満たし、細胞療法の早期臨床試験から再生医療等製品の提供を行っています。2022年4月現在、先端分子・細胞治療科は、悪性腫瘍に対する細胞療法の各種試験と保険診療における血液悪性腫瘍に対するCAR-T (Chimeric Antigen Receptor-T cell) 療法や重症心不全に対する心筋シート作成を支援しています。

【学会施設認定】

日本内科学会、日本血液学会、日本再生医療学会
日本造血・免疫細胞療法学会